



劣化する日本の食 (その1)

遺伝子組み換え作物という災厄

本誌前号(49号)で問題とした、種苗法改正案は、その後昨年12月2日、参院本会議で可決、本年4月から施行される。これが日本農業の根幹にかかわる重大な方向転換であったことは記憶しておくべきだ。すなわち①2017年7月、種子法廃止で「公共の種子」を廃止し、②同年8月の「農業競争力強化支援法」で、公共の種子の知見を企業(外国多国籍企業を含む)に譲渡して「民間の種子」を開発させ、③今回の種苗法改正で農家から自家採取の権利を奪い、「民間の種子」を買わせる。

この手口は、まさにモンサント(現バイエル)などがラテンアメリカなどの国々の農業支配に使ってきた、やり方そのものであり、長期的に見れば、これによって、48号にも記したが、「モンサントなどによる日本の食と農の完全支配構造の構築」へと向かいつつあると見るべきであろう。

一方で昨年は全世界がコロナ禍一色。「おうちごはん」とやらの機会も増えた。そうした中、本誌では二回に分けて、遺伝子組み換え(以下GMと略)作物や様々な農薬などによる日本の深刻な食の劣化について改めて考えてみたい。第一回の今号では、知らないうちに口にしているGM食品の危険性。次号では日本国内で使用されている農薬の危険性について。なお資料として、奥野修二氏と安田節子氏のそれぞれの新著①②および山田正彦氏の著書③などを参考にさせていただいた。(著書名は本文末の参考図書欄に記載)

さて本題に入る。安田氏によると、遺伝子組み換え(以下GMと略)作物に関しては日本が輸入量世界一(金額換算)とのこと。しかし筆者も含めて大方の日本人は、そういわれても、あまり実感が持てないのではなからうか。

これは、GM食品の日本での表示法(GMなのか、そうでないのか)に欠陥があることに原因の一つがあるようだ。元農水大臣の山田正彦氏著③によると、輸入が許可されて、販売、流通が認められているGM作物は大豆、トウモロコシなど8種類。これら8つの作物を主な原材料とする加工食品群の中で、安全性審査をクリアしたのは、320種を超える(19年5月現在)。ところがGMの標示が義務づけられているのは、なんと33種しかないという。大豆を例に挙げれば、豆腐や納豆は表示義務があるが、醤油や植物油などにはない。様々な形で抜け穴があるのだ。

その結果、日本ではマーガリンやマヨネー

ズ。みりん風調味料、コーンシロップ、コーンフレーク、スナック菓子の油など表示義務のないものがあふれかえることになってしまった。また、家畜の飼料はその70%が輸入作物(その90%はGMトウモロコシ)であるにもかかわらず、その肉や乳製品を含めた畜産品にも表示義務がない。つまり、私たちは日々、GM作物で作られた食品を全く気付かぬうちに口にしているということになる。そのうえ、納豆などの表示についても、これまではGM作物が混入していても5%以下なら「GMでない」の表示ができたが、2023年4月からは、法律上「不検出(つまり0%)」の場合だけ表示できることとなる。従って多くの食品から「非GM」の表示が全くなくなってしまいそうだ。これではGM食品の危険性に実感が持てないとしても当然かもしれない。

そこで、「百聞は一見に如かず」。ユーチューブを見ることができると方には、安田著②の紹介するドキュメンタリー「遺伝子組み換え戦争」(2014年フランス製作)をお勧めする。

<https://www.youtube.com/watch?v=kyWoYacAHfQ>

種苗法改正後の現在、日本でもモンサント等のGM種子の販売が懸念される中、この問題は他人事では済まされない。

さて、そもそもGM作物とはどのようにして作られてきたのか。簡単にその経緯を考えておこう。山田著③によれば、それはモンサントの社史と密接に関連している。まずモンサントは、除草剤ラウンドアップを1974年に発売して大きな成功を収め、自社の看板商品とした。この除草剤は、すべての植物を枯らしてしまうほどの強い除草効果を持つが、それ故に作物には直接撒布できない。ところが、たまたま、その生産工場の排水溝からラウンドアップに耐性を持つ微生物が発見され、同社は、大豆などの作物の遺伝子にこの微生物を組み込んだGM作物を作り出す。そしてラウンドアップと化学肥料、それにこのGM作物を3点セットとし、これらを、除草が不要で収穫量も飛躍的に増える「夢の農作物」として世界中に売り出す。このセットは瞬く間に大ヒット。モンサントは急成長を遂げた。

その結果、2017年時点でGM作物は世界24か国で栽培され、その全体の栽培面積は、(次ページへ)

目次:

劣化する日本の食(1)	1
	2
ゆったりウオーク 手岡	3
	4



ゆったりウオーク・手岡にて

定例会のお知らせ

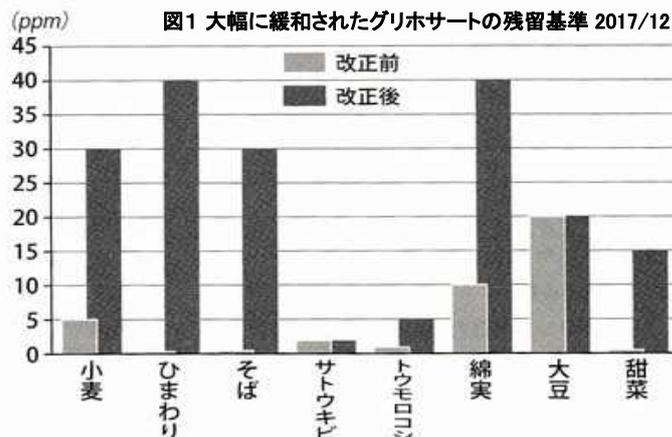
毎月・第4金曜日

午後1時~2時

参加希望の方は会場・日時をお問い合わせください。

◆ ご協力お願い

毎月11日はイオンの「イエローシートキャンペーン」日です。半年に一度、シート合計金額の1%が登録団体にカードで寄贈されます。当会も登録しています。毎月11日のお買い物時には、「今市の水を守る市民の会」のボックスにシートを入れてくださるようご協力お願いします。当会の活動に必要な品物を購入させていただきます。



1億9千万ヘクタール(日本の面積の約5倍)に迫る。モンサントは、世界に流通する、GM作物の種子の、実に90%を占めるという。

しかし、山田氏によると、最近こうした世界の流れを一変させる、歴史的な転換点が訪れた。すなわち、2018年8月10日、末期の悪性リンパ腫と診断されたカリフォルニア州在住の男性(46歳)が、癌発病の原因は除草剤ラウンドアップにあるとしてモンサントを訴えた裁判で勝訴したのだ。この裁判ではモンサントの数々の隠ぺい行為などが機密文書を通して明るみに出て世界に大きな衝撃を与えた。

これが大きな契機となってグリホサートを主成分とする、ラウンドアップに「ノー」を唱える流れもアメリカ、EUだけでなく、今や世界中に伝播している。お隣の韓国ではラウンドアップは登録されているものの、使用は一切禁止されているという。そうした中、日本では驚くべき出荷額。量販店などではグリホサートを主成分とする多くの種類の除草剤が山積みになって売られている。

グリホサートの毒性に関しては48号でも触れたので、ここでは安田著②の報告例のまとめの部分のみ引用しておく。「世界の報告例では、妊娠期間の短縮化、出生異常、自閉症の増加、認知機能の低下、腸内細菌への影響、腎臓病、癌化、脂肪肝の増加といった症例が報告されています。グリホサートが有機リン系農薬で、神経毒性を持ち、また環境ホルモン作用があることから、生殖にも多大な影響を与えると考えられています。」(2~3頁)報告例は多岐にわたり、その対応もまちまちなので詳しくは同書をご覧いただきたい。いずれにしても世界の多くの国々は、一様にグリホサートの規制、禁止の方向に向かっている。

ところが日本は2017年、よりによって大幅にその規制を緩和した！(図①:前ページ)日本政府は、国民の命よりもアメリカとその背後の多国籍企業の利益、意向を選んだのである。

図①を見ると、まず小麦のグリホサート残留基準値が目につく。これは「プレハーベスト」(収穫直前にラウンドアップをかける)のためである。農水省は日本人のグリホサート摂取量を各作物ごとに基準値に基づいて試算しているが、小麦は断トツの1位で他を大きく引き離している。最近の「おうちごはん」でも、パンやパスタ、焼きそば、うどんなどの購入が多いだけに、要注意である。ちなみにコメ(玄米)の残留基準値は0.01ppm。主食クラスになりつつある小麦の基準値はどう見ても高すぎるのではなかろうか。また、ソバも値が150倍に跳ね上がった。これを見ると、ソバ好きの筆者も外食店に入るのに若干、不安を感じる。

そうした数値を念頭に置いて表①をご覧ください。これは一般に市販されている食パンのうちの一部のもののグリホサート残留調査結果である。学校給食のパンについても奥野著①によると、市販のパンと変わらない(表②)。(表①、表②ともに2019年一般社団法人農産物検査センターによる調査結果を基に作成)

表① パンに含まれるグリホサート(ppm)

会社名・商品名	グリホサート分析結果(ppm)
山崎製パン ダブルソフト全粒粉	0.18
山崎製パン ダブルソフト	0.10
山崎製パン・超芳醇	0.07
敷島製パン・Pasco 麦のめぐみ・全粒粉入食パン	0.15
敷島製パン・Pasco 超熟国産小麦	検出せず
ザクセン・有機食パン	検出せず
フジパン・本仕込食パン	0.07

外国産の小麦を使用しているものにはグリホサートが残

留している。米粉と国産小麦はグリホサートを撒布しないのでこれらを使ったものからは不検出である。グリホサートはごく少量でも健康被害をもたらすという実験結果もあるので避けたほうが賢明だ。奥野氏はグリホサートによる健康被害で最も大きな影響を受けるのが乳幼児や子供たちだということを考えると、この国の未来を思うなら、せめて学校給食は国産小麦にすべきだと力説されている。千葉県いすみ市のように有機米の学校給食はなおよいのではなかろうか。

最後に、今回二冊の新著を読んで、特に印象に残った、二つの点を記しておく。一つは奥野氏の「複合毒性」ということ。驚いたことに、一般に農薬の安全基準を決める毒性検査では、実際に使われる農薬製剤(例:ラウンドアップ)ではなく、基本的に原体(この場合はグリホサート)で調べられているのだという。常識的に考えても化学物質の毒性は1+1は2ではなく、10にも100にもなりかねないのではなかろうか?ところが農薬の場合、「企業秘密」として親化合物しか調べない検査がまかりとおっているという。早い話が、グリホサートとラウンドアップでは、木村一黒田純子氏の報告では、後者の毒性は、前者の100倍であることをヒトの細胞で確認しているとのこと。

もう一つは安田氏の著書から。GM作物などによるラウンドアップの過剰な撒布により、ラウンドアップ耐性雑草の広がり(380種以上)が発生している。このためモンサントは、ラウンドアップ以前に開発した、より強い除草剤ジカンバと共に使用できる、ジカンバ耐性GM大豆を開発した。ジカンバは広範囲にわたる高い漂流性を持つため、米国農業や自然環境に広範なダメージを引き起こし全米各地で損害賠償や懲罰的賠償を請求する多くの訴訟が起こされている。また最初に紹介した映画「遺伝子組み換え戦争」では、アルゼンチンの農民のトラクターには、より強毒な除草剤アストラジンや2.4Dの空き缶が残っていた。

アストラジンは日本ではシンジェンダ社から「ゲザプリム®」の名で市販されている。2.4Dはベトナム戦争で枯葉剤として用いられた。製造過程でダイオキシンを発生させる。驚くべきことに日本でも芝や水田の除草など広範囲に使われている。ジカンバ耐性大豆に関しては日本は早くも2013年に認可し、大豆のジカンバ残留基準をそれまでの0.05ppmから10.0ppm(200倍・米国の基準と同値!)に引き上げた。

世界のGM作物生産現場では、GM作物用の農薬と耐性雑草の「いたちごっこ」が起こっており、GM作物は、ますます多くの種類と量の除草剤、殺虫剤を投入せざるを得ない。こうしたことと、先ほどの奥野氏の複合毒性の問題を合わせて考えると、日本の食の未来は、まさに無限地獄的状况に陥っていくとしか言えないのではなかろうか?「食」を取り巻く、こうした惨状を、まずは一人でも多くの人たちが正確に認識する必要があるように思う。(丁・文責 森・2021/2/7)

【参考図書】

- ① 奥野修司著「本当は危ない国産食品」(新潮新書20年12月刊)
- ② 安田節子著「食卓の危機—遺伝子組み換え食品と農薬汚染」(三和書籍20年10月刊)
- ③ 山田正彦著「売り渡される食の安全」(角川新書19年10月刊)

表② グリホサート分析結果(ppm)

商品名	小麦の原産地	グリホサート分析結果(ppm)
コッペパン(学校給食パン)	外国産80%県産小麦20%	0.05
はちみつパン(学校給食パン)	外国産80%県産小麦20%	0.05
Sロール(学校給食パン)	埼玉県産小麦100%	検出せず
コッペパン(学校給食パン)	外国産100%	0.04
ロールパン(学校給食パン)	外国産100%	0.05
学校給食パン(焼きそばパン用)	不明	0.07

疫病退治の獅子舞の里 手岡を歩く

2020. 10. 25 ゆったりウォークより

新しい年が動き出しました。当会は旧今市市内の水にかかわる野外活動を実施しています。感染症対策の環境を整えば活動を再開していきますので、今年も宜しくお願いします。

昨年は思いもかけぬコロナウィルス出現の為、毎年2回行ってきた「川むし探検」は中止、「ゆったりウォーク」も秋のみの実施となりました。場所は日光市南部の手岡(ちょうか)です。

この地を選んだのは全く個人的な興味からです。市民となつてはや40年近くになりますが、この周辺を車で通過してもなかなか道を覚えられず、二本の川が流れていることも古賀志山塊の麓であることもよく判っていませんでした。車の往来もそれほど多くない静かな田園地帯を地図で探っていたら、岩崎の観世音様(鶴の子観音)の他に隣の手岡地区にある人丸神社という名前が目に入ってきました。昔から人々の暮らしの中に根付いた祈りの形がそれぞれの地にあるはずと思い、下見に足を運んだら偶然とは思えぬ地元の方との不思議な出会いがありました。このことも、この地を心ある人と共に歩いてみたいという気持ちに進ませてくれたきっかけです。以下、当日歩いたコースとこの地に刻まれた歴史を少々紹介させていただきます。

10月25日(日)快晴。午前9時。岩崎観世音 駐車場に集合。参道を登って参拝後、地元にお住いの森山一郎さん(89歳)より貴重なお話を伺うことができました。昔話の「子授けの卵」



はよく知られていますが、この観音様は馬頭観音で馬を護る役目を持っているということ。それを象徴するように、「第二次大戦中は徴用された農耕馬が無事帰ってくることを祈願するため、近郷近在よりたくさんの方が馬と共に参拝に

訪れていた」、また、「中国大陸に出征中のある人がある所でたまたま合流した他の部隊と休憩中、一匹の馬が寄ってきてその人に鼻を摺り寄せてきたのでよくよく見て撫でてやったら、かつて飼っていた馬だった。わずかな時間だったが、お前もお国の為に頑張れよと励まして別れた」というエピソードも披露してくださいました。日頃からいかに馬が大切に飼われてきたか、そして馬もまたその恩を忘れていなかったというお話は心に残りました。

刈り入れの済んだ田の傍をゆったり歩きながら参加者同士の会話が弾んだのは、快晴の秋空の奥に姿を誇る男体山があったからでしょう。参加者のお一人がせせらぎの聞こえる場所で鳴いていた鳥を画眉鳥(ガビチョウ)と教えて下さったのも、ウォークの中身を濃くしてくれました。渡邊家庭園で休憩・武子川源流の一つを確認・人丸神社参拝・板橋川との合流地を経て出発地に戻る約5キロの行程でした。12時過ぎに解散した後、奥の院に登る人、観世音そば「下の家」の手打ちそばに舌鼓を打つ人など、参加者それぞれの時間を楽しめたかと思っています。今回参加者は予定を越える21名でした。寄せて下さった感想があります。また、立ち寄り先についても以下をご参照ください。

■ 手岡地区

手岡は旧今市市域の最南端部に位置し、東は猪倉、西は例幣使街道に沿って板橋・文挾、南は岩崎・古賀志(宇都宮市)、北は板橋・猪倉に接しています。北東部の猪倉、箱守(森)山中に生れた水は武子川となって、米つくりの農地を潤していきます。

「ちょうか」とはなかなか読むことのできない地名ですが、古く



は「弟岡」と称され、それが「茅岡」と誤記されたのではないかとの説もあります。その後、寛永7年(1630)の文書には「茅岡」、寛永12年(1635)には「手岡」が登場し、今日まで続く地名になっていったとのこと。

■ 人丸神社

字萩原にあります。延徳元年(1489)に村の定名主(じょうなぬし)である渡邊図書之介(わたなべずしよのすけ)が氏神として祀ったものであると、明治11年の神社事由詳記に記されているそうです。柿本人麻呂の名がついていますが、祭神は大坂住吉大社の住之江三神(底筒之男命・中筒之男命・上筒之男命)の一つである底筒之男命—ソコツツノオノミコト—が祀られているとのこと。三神とも水にかかわる神であり、底筒之男命は伊邪那岐命—イザナギノミコト—が水の底をすすぐ時に生れた神の名ということで、武子川の源流近くに鎮座されているのも水にまつわるこの神の伝えを納得させる力を持っていると思いました。近くには二つの湧水の池がありそれぞれ祠が祀られています。

毎年、8月末の日曜日には当神社にて獅子舞が奉納され、その後、渡邊家にその獅子が出向いてそこでも奉納されるそうです。今年も8月29日(日)の10:00に人丸神社、11:00に渡邊家に獅子が到着ということなので、迫力ある獅子舞をぜひ見学したいと個人的には思っています。当会報をお読みの皆さんも一緒にどうぞ。



■ 渡邊家母屋について

人丸神社を探しあぐね、迷い込んだところに見事な建物が現われました。このように立派なお屋敷を見るのは私の体験からも初めてのことでした。そして、またまた驚いたのは、二度目の下見の時に思いもかけず現在のご当主である渡邊源蔵様とお会いする機会に恵まれ、詳しいお話を伺えたことです。不思議なことでした。お屋敷の北側に人丸神社はあります。

渡邊図書之介という人は手岡村の定名主でありました。後の江戸期における渡邊清左衛門家の先祖に当たるそうです。清左衛門は名字帯刀が許される大地主でした。現在でも人丸神社南側に堀をめぐるせた母屋といくつかの蔵が建っていて、屋号を堀の内と言うそうです。男衆・女衆が立ち働き、力仕事をする馬も台所奥に大事に飼われていた広く大きな家の造りは、周辺の景色と相まって往時の面影をしっかりと今に伝えていいます。建物奥には杉林があり、前庭には見事なしだれ桜がその高さを誇っています。春の姿をぜひ拝ませていただきたいと、参加者からも多くの声が挙がりました。(次ページに続く)



活動報告・2021年

- 8月28日(金) 定例会
- 9月18日(金) 定例会
- 9月30日(水) 落合西小4年生 環境学習授業
- 10月25日(日) ゆったりウォーク(手岡)
- 10月30日(金) 定例会
- 11月20日(金) 定例会



当主、渡邊源蔵氏のお話し。
※ 明治になってから建て替えた。
ドイツ風の窓を見事にしつらえた
明治期の大工集団の技術には目を
瞠るものがある。

※ 昔は大谷石の石屋根だった。
※ 七つ蔵があった。
※ 松平正綱によって徳川家に寄
進された杉並木は、渡邊家ほか
何ヶ所かで育て上げた苗木を献
上したもの。その時の記念として
苗木の一部が当家の庭に植えら
れ、現在も建物の脇に元気な姿を
見せている。

※ 残存していた古文書類は公の
機関に寄付した。

※ 日本民藝運動を起こした柳宗悦と共に、濱田庄司・バー
ナード・リーチが当家に宿泊したことがある。

※ 東京目黒にある「日本民藝館」には当家正面の写真が現在
も飾られている。

※ 杉並木公園の「報徳庵」傍の建物は小倉の江連家より寄付
されたものだが、もともとは渡邊家の母屋が江連家に渡ったも
ので、中の造りは現在の建物と同じ。

※ 獅子舞について昔からの言い伝えによると、「ある時、蔵に
しまっておいた獅子が騒いでいる声がした。これは疫病を退治
するための声だったので、外に連れ出して悪魔祓いをした」そ
れをアレンジしたものが文挾流獅子舞。

■ 文挾流獅子舞 発祥の地

獅子舞には文挾流と関白流の二つの流派があり、小林地区
で奉納されている関白流との違いは、文挾流の激しい踊りにあ
るとされています。渡邊家の石橋を渡る時と門をくぐる時は、そ
れぞれ違う踊りが披露されるそうです。

この獅子舞の由来や発祥年代を示す昔の書物が焼失してしま
っているのは残念なことです。太閤検地前の古文書がどこか
で発見されれば渡邊家の歴史も判明するのだが…と、ご当
主のお言葉です。

■ 参加者の感想

▼ 渡邊家の歴史・建物が素晴しかったです。地元の方のガイ
ドも素晴しく、馬にまつわる体験的な説明も興味がわきました。



▼ 参加料100円は、安くていいと思います。資料がしっかりし
ていました。作成大変だったと思います。お疲れ様でした。
ゆっくり歩いて、いいリフレッシュになりました。

▼ 渡邊家の話、良かった。

▼ 日常、何気無く見ていた神社に興味深い伝説があったり、
貴重な民俗文化が受け継がれている事を教えていただき、世
の中の見え方が少し変わりました。地元の方の解説も素朴な
がら、とても面白かったです。

コースタイムについては、若干間延びして残念でした。ポイント
ごとに通過時間を決めるなどの工夫が必要な気がしました。好
奇心旺盛な参加者が多く、主催者の皆さんはご苦労されたと思
います。ありがとうございました。

▼ 天気もよく、本当に良い秋の一日でした。久しぶりの歩きで
足が痛くなりました。でも、とても気分が良かったです。近くにこ
のようなところがあるのだと、再認識しました。風景も素晴しかっ
たです。このような驚きの場所を探し出す力にただただ脱帽で
す。トイレの設置など、準備がたいへんだったろうと、改めてお
礼申します。

多数の方の参加をいただいたのはたいへん有り難いことでした。
天候にも恵まれました。澄み切った秋空に見事な建物が
いっそう深く映えていました。遠い昔からさまざまな疫病が迷い
込んできた歴史を手岡の獅子舞は伝えていていると思います。コ
ロナウイルスも一掃して欲しい。足許にある素朴な祈りに気付
かされた一日でした。

ご協力に感謝します:

森山一郎様、田邊一丸様、
渡邊源蔵様、半田耕一様

参考文献:

「故里百話」、
「今市のむらの歩み」
(いまいち市史)、
「渡邊様資料」(柳 宗悦 執
筆の冊子、『下野の旧家』よ
りの記事、下野新聞記事)

春のゆったりウォーク、
前述の枝垂桜見学と合わせて
4月11日頃を計画しています。



(塚崎)

編集後記

街角のポスターでよく「GOTO」という文字を見かけるなあと思いながら本箱を整理していたら『GOTO
文はなるべく避け、ブロックFを使う。ただし例外処理(エラー処理)にはGOTOを積極的に使う』と書
かれた紙が本の間から出てきました。昔、プログラム言語「FORTRAN」を使っていた頃、30年も前に自分が作ったメモ
の断片でした■コンピュータに仕事をさせるための命令の集まりが「プログラム」です。命令に書かれた順に計算処理が行
われるのですが、便利のためプログラムリストの適当な位置にジャンプする指示=GOTOが必要です。しかし、GOTOが多
用されたプログラムはチェックが難しく、想定外の動作が発生しやすいという弱点が指摘され、現代のプログラミング言語
はGOTOを使わずにすむように改良されています■さて街中のGOTOはいまのところ使用禁止。『エラー処理には行き先が
明確なGOTOを』という過去のプログラム心得が、なぜか目の前の「GOTO幟旗」と重なってしまうこのごろです。(T)